「鳥」に掲載された原色写生図目録

黒 田 長 禮*

Summary

Coloured Plates in the Tori from 1915 to 1942

Nagamichi Kuroda

The following checklist of species or subspecies of birds figured in colour in the Tori is arranged chronologically rather than taxonomically. No page references are given, as all plates were published as frontispieces for their respective issues. In all, 31 coloured plates have appeared in the Tori from 1915 to 1942. The names of artists are represented in right column.

古い会員諸君は記憶されているであろうが、若い方々が多くなった今日、どんな鳥の原色図版が「鳥」に出ていたかを知れば確かに参考となると思うので以下に列挙して見る。このことのヒントを得たのは Dr. Kenneth C. Parkes の論文1963 (Colored Plates in the Wilson Bulletin through 1962. Wils. Bull., 75 (3): 289~294, 26 Sept., 1963) である。年代順に掲げる。

年 代	巻 号 図	鳥 名	著 者	写 生 者
1915	1 (1) 1	レンカク	松 平 頼 孝	横 山 慶次郎
1915	1 (2) 3	クロアナツバメ テラオカナンヨウショウビン	黒 田 長 禮	"
1917	1 (5) 6	イイジマメジロ シマシジュウカラ	"	"
1920	2 (10) 5	ヤマガラ各亜種	黒 田・萩 山	小 林 重 三
1923	3 (14) 5	ヨシガモ×ヒドリガモ	黒 田 長 禮	"
1924	4 (18) 3	カンムリツクシガモ ♂	"	"
1925	4 (20) 7	カワウ頭部 (ウミウとあり)	"	黒 田 長 禮
1926	5 (21) 2	キジ×コウライキジ (雄変)	萩 山 徳太郎	小 林 重 三
1926	5 (21) 3	ナキアヒル (雄変)	"	"
1928	5 (25) 8	スマレキジ ♂♀	蜂須賀 正	Grönvold
1929	5 (27) 2	クロライチョウ ♂♀	森 為 三	金 周 経

* 東京都港区赤坂2-17-10

1930	6 (29) 5	コマホオジロ 雄♀	山 階 芳 麿	山 階 令夫人
1930	6 (30) 7	ルリホウワウ	"	小 林 重 三
1931	7 (31) 2	ツバメチドリ (雄亜成鳥)	靱 山 徳太郎	"
1932	7 (33-34) 4	ヒメロハラミズナギドリ	黒 田 長 禮	"
1932	7 (33-34) 5	ハシブトゴイ	"	Grönvold
1932	7 (35) 7	ミクロネシア産鳥卵	山 階 芳 麿	小 林 重 三
1935	8 (40) 10	シラコバト× ベニジュズカケバト	黒 田 長 禮	"
1935	9 (41) 1	ウチダウソ 雄♀	"	横 山 慶次郎
1936	9 (43) 3	<i>Estrilda nigricollis</i>	山 階 芳 麿	?
1936	9 (43) 4	カラフトアオアシギ 雛	黒 田 長 禮	小 林 重 三
1937	9 (44) 5	ヤマガラ色変変・ ヤマガラ×コガラ (?)	"	"
1937	9 (45) 8	台湾産鳥類の卵	山 階 芳 麿	"
1937	9 (45) 9	ブンチョウ羽衣 変異	黒 田 長 禮	"
1938	10 (46) 1	タイワンオオセッカ	"	"
1938	10 (47) 3	台湾産鳥類の卵 (21 種)	山 階 芳 麿	"
1938	10 (47) 4	ツルクイナ成幼	黒 田 長 禮	"
1939	10 (49) 7	ハチスカサンケイ 雄♀	蜂須賀 正	"
1940	10 (50) 9	ネズミガシラアカツシ ガモ♀ 頭部	黒 田 長 禮	"
1942	11(53-54) 2	ハシナガメジロ オニメジロ テリカラスモドキ	山 階 芳 麿	"
1942	11(53-54) 3	パラウムナジロバト クロクイナ	"	"

11 (55) 以後には原色図版は見当らない。

附記——本会から1915年に「鳥」第1巻1号が出版され始めて海外の主な学会に寄贈されたのであった。英国のたしか Tring Museum の Dr. E. Hartert から私に手紙が来て“TORI is a short and nice name”と書いてあった（欧州人は主に手記し、タイプライトではなかった）ことを思い出す。勿論この手紙は戦災で焼失している。「鳥」の批評がアイビスであったろうと思うが、それに書かれ、その内に口絵図版がレンカク (*Hydro phasianus chirurgus*) であるのは腑に落ちない。この鳥は日本の鳥ではないではないかとの意味が書かれていたのを

記憶する。勿論その当時レンカクは台湾から知られているのみであったが吾々は台湾が日本に併合されて永い年月（約25年）を経ていたの、この鳥は日本であると思っていたが、外人には動物地理学的見地からして全く台湾と日本とは無関係であると考えられたのであろう。

処が最近「野鳥」35 (10; 289) : 542と口絵第3図（上下）の写真とを見ると鮮明なるレンカクの成鳥が茨城県茨城町海老沢の潤沼で発見（12. vii. 1970）、西野正義氏により平常の姿と飛び立ちとを撮影されているのを知って驚かされた。これでレンカクが再び日本の鳥目録に登載される運命となったと思う。誠に不思議な因縁といわざるを得ない。どうもこれは野鳥であって籠抜けのものとは考えられない。

「鳥」20 (88) 正誤表（黒田の分）

頁	行	誤	正
30	15	小青鸚鵡	小青鸚鵡
30	17	或は	〔消す〕
30	18	marquers	Marquess
30	下より 9	<i>benglensis</i>	<i>bengalensis</i>
30	下より 5	Lattam	Latham
30	下より 1	mélides	Mélides
31	6, 8, 11, 下より 3	囋	囋
31	6	消々	稍々
31	13	頸上	頭上
31	14	<i>Polaeornis</i>	<i>Palaeornis</i>
31	下より 16	頭はでは	頭はひでは
31	下より 12	<i>paleornis</i>	<i>Palaeornis</i>
31	下より 11	Jacca	Decca
31	下より 10}	Coehin	Cochin
32	2}		
31	下より 9	<i>juneoe</i>	<i>juneae</i>
31	下より 6	右を入れる	〔“ <i>Palaeornis rosa</i> ”=Ps.〕 〔 <i>cyancephala</i> , subap.〕を入れる
32	3	headea	headed
32	6	1938	1937
32	11	malié	Malié
33	1	(♂)	151.5 (♂)
34	下より 4	Kasei-inks	Kosei-inko
35	5	分表	分布図
60	12	uapa	nape
60	13	ault	adult
60	18	scientic	scientific
60	10	marquess	Marquess
61	10	上3頸	上頸
61	21	maximillian's	Maximillian's
62	下より 2	<i>crecce</i>	<i>crecca</i>
63	1	87	89
64	7	Raitasus	Raitasuo